

令和5年12月18日

国立大学法人筑波技術大学

学長選考・監察会議

国立大学法人筑波技術大学学長の業務執行状況の確認結果について

学長選考・監察会議は、国立大学法人筑波技術大学学長選考・監察会議規則第4条第1項第4号の規定に基づき、石原保志学長の令和4年度における業務執行状況（以下、「業務執行状況」という。）の確認を行ったので、その結果を公表する。

記

1 確認の経過

第48回学長選考・監察会議（令和5年12月4日）

業務執行状況について、石原保志学長に対し、次の資料に基づきヒアリングを行った。

また、ヒアリング終了後、業務執行状況の確認のための討議を行った。

- (1) 学長就任時の所信表明書
- (2) 令和4年度監事監査報告書
- (3) 令和4年度自己点検・評価書
- (4) 学長から提出のあった主な実績の概要資料

2 確認結果

(1) 新学部設置に向けた取組

本学の最大懸案としてかねてから検討が進められてきた新しい社会的要請に的確に対応する方策について、学部等連携課程案、学科設置案等の検討を経て、新学部（共生社会創成学部）創設の方針を確定するとともに、その早期実現に向けての精力的な努力を開始したことを高く評価する。

また、教職員に対し、これらの検討の経過、進行状況等を丁寧に説明する機会を複数回設け、新学部の設置のねらい、育成する学生像等の理解を深めるとともに、全学一体として改革を推進する機運を盛り上げ、その方向に導いてきたことも同様に評価したい。

(2) 入学定員未充足の解消に向けた取組

産業技術学部（94%）、保健科学部（58%）ともに入学定員充足率が100%を下回っていることは残念である。学長のリーダーシップのもとに両学部ともスピード感をもって入学定員確保に取り組むことを期待したい。

特に保健科学部については、健康志向の一層の高まりや生成AIの発展など社会情勢が激変していく状況を踏まえ、将来の障害者雇用の動向の適確な把握に努めつつ、教育研究内容・体制の抜本的な改革に積極的に取組み、視覚に障害のある高校生のみならず社会人のニーズにも的確に対応しうる新しい学部体制を構築することに努められたい。

(3) リカレント教育に関する取組

文部科学省の委託事業「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の採択を受け、リカレント教育の推進に積極的に取り組んでいることを評価する。本事業で修了生に交付する履修証明書が今後社会で活かされ、修了生の活躍の場が一層広がることを期待する。

(4) ガバナンス強化の取組

学長裁量による大学経営・IR担当の新規人材の採用とともに執行部体制の刷新（新学部担当の副学長の配置等）を行い、また常勤監事の採用準備、プロパー職員の幹部職への登用など、大学全体のガバナンス体制の強化を積極的に進めた。

3 総括

大規模な組織改革を通じて教育研究体制の実質的改革を精力的に推進しようとしている姿勢を高く評価し、現に進められている本学の特色をふまえた様々な取り組みを評価する。

当面の両学部の入学定員未充足の解消については、幅広く学内はもとより高校生・保護者、関連する企業・行政機関等の意見に耳を傾けつつも、学長の強いリーダーシップを発揮して、社会的ニーズに即した具体的な改善措置の早急な取り纏めとその実施に向けての取組を期待する。

以上